



学びの虹

東京都立鹿本学園 学校通信 令和7年11月28日号

東京都立鹿本学園

校長 堀江 浩子

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

百聞は一見にしかず・百見は一考にしかず・百考は一行にしかず

- ・「百聞（ひゃくぶん）は一見にしかず」は、「多くの伝聞や知識よりも自分の目で見たほうが大事である」。
 - ・「百見は一考にしかず」は「見るだけではなく、自分で考えることが大事である」
 - ・「百考は一行にしかず」は「考えるだけではなく行動することが大事である」という意味です。
- 本校の新たに行った行事に触れながら、話をします。

江戸川区防災・防犯FESについて（令和7年11月16日 日曜日）

「地域でつながる防災の輪」というテーマのもと、江戸川区は三つの会場で防犯・防災FESを開催しました。本校は、区立葛西小・中学校体育館において「鹿本学園ブース」として、避難テントや災害食（形態食）の展示や心臓マッサージ等の体験等を実施しました。お子さんから高齢者まで、約110名が本校のブースを訪れ、見学・体験しました。

「鹿本学園を初めて知りました」「知っていたけど、障害のある子供達にとって、災害時に何が必要かをわかりました」「形態食やテントなど、うちも必要なことでわかりました（写真を撮る方も多数いました）」等の感想を沢山いただき、

★障害がある人とかかわる機会が少ない方が、学校や子供達を知り理解する機会となったこと。

★私達の防災の取組が、一般の方の「災害の準備の見直し」の一助になったこと。を実感しました。

次年度も「見て・体験する取組」を続けることで、学校そして子供達を知って理解して下さる方々を増やしていきたいと考えます。なお、学校単位で参加したのは本校だけです。生活指導部や主幹教諭の先生方、準備から当日までありがとうございました。

虹輝祭（令和7年11月21日・22日 金曜日 土曜日 来校者数計 650名）

肢体・知的関係なく、・子供達の作品を見ていただきたいこと、・「祭り＝イベント」として子供達が参加する場面を増やしたいこと理由により、「肢体不自由部門棟の廊下での展示」と「第二体育館でのパラスポーツ体験（江戸川区・西川精機協力）」を新たな取組をしました。特に、パラスポーツは江戸川区立総合体育館の指導員の方々に実施。指導員の方々にとっても、様々な障害や特性がある子供達に大勢かかわることが初めてでしたが、「障害があることで配慮することがより理解したが、何より一緒に楽しめることが嬉しかった」ととても喜んでいました。

★地域に余暇活動ができる場所と活動を支援する大人を増やすことができた。と考えます。

「百聞は一見にしかず」は、古代中国の「漢書」に書かれた武将・趙充国（ちょうじゅうこく）のエピソードに由来しますが、その他の由来は調べきれませんでした。

「話や噂を聞くより、実際自分で見て、実際に見たことについてよく考える。考えることも大切であるが、実際に経験・体験することで、実感することも必要である」これは教育も同様です。

今後も、本校のこと、子供達を知って理解していただき、地域の中で受け入れていただいたり、支援してくださったりするためにも、「働き方改革」も念頭に置きながら、地域への発信や地域と連携していく取組は継続していきたいと考えます。

鹿本学園校長 堀江 浩子

11月16日 江戸川区防災・防犯F E Sの様子



11月22日・23日 虹輝祭 第二体育館パラスポーツ体験の様子



進路指導の取組（進路指導部）

「令和7年度 知的障害教育部門 中学部 企業見学・体験学習 実施」

令和7年8月27日（水）に知的障害教育部門 中学部生徒・保護者対象に実施いたしました。実施場所は「ジブラルタ生命保険株式会社」（港区港南）です。生徒5名と保護者5名が参加をしました。

まず最初に会社内の見学をしました。初めは少し緊張した面持ちの生徒でしたが、社員の方からの丁寧な説明をリラックスして話を聞くことができました。業務体験では、会社で実際に行っている「付箋貼り」を体験しました。集中して真剣に取り組むことができ、とてもいい経験をする事ができました。



「令和7年度 タイピング教室 実施」

令和7年10月2日（木）に本校パソコン室にて、肢体不自由教育部門 高等部準ずる教育課程生徒を対象に「タイピング教室」が実施されました。講師としてジブラルタ生命保険株式会社の社員の皆様に来ていただき、御指導をしていただきました。タイピングの基礎となるホームポジションの指導や保険業務体験（住所入力・変更作業）などを行ったのですが、生徒たちはとても意欲的に取り組んでいました。又、講師の方からの「やりたい仕事はなんですか？」「感想や質問はありますか？」の問いに、生徒たちは積極的に回答し、終始穏やかで活気ある教室となりました。



肢体不自由教育部門 進路指導担当 山村 綱哉

知的障害教育部門 進路指導担当 満井 友加里

